

自己評価票

自己評価は全部で101項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	101

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム 加治川の里
(ユニット名)	さくら棟
所在地 (県・市町村名)	新潟県新発田市向中条2843番地1
記入者名 (管理者)	小川 多美子
記入日	平成 20 年 3 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作り、目立つ場所に掲示している。	利用者の生活が毎日笑顔で送れる様、理念としてかがげている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に話し合っている。	利用者個々に対して職員間で話し合い、意見を統一し、ケアを行っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	広報を作成し、玄関や廊下に掲示を行い、地域には回覧板にて回している。	説明を求められた際にはその都度説明をしている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物時には挨拶をしたり、声を掛けている。また、行事等がある時には近隣に声を掛け、参加を促している。	〇 行事だけでなく、定期的にお茶会などを開き、参加を促して行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや盆踊りなどに声を掛けて頂き、参加させて頂いている。	〇 近隣の小学校との交流があるが、来年度に統廃合するため、新しく統合した小学校と交流を深めて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受け入れを積極的に行っている。	○	地域から要請があれば、介護教室等を開いていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、ケアやサービスの向上に努めている。		外部評価の結果を受け、改善点を全職員にて共有し、改善を図っている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、検討事項などを話し合い、サービスの向上に努めている。		議事録を玄関などの掲示板にて掲示し、来訪者にも見ってもらっている。 また、職員も職員会議だけでなく、ミーティングにて話し合い、サービスの向上を図っている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外には、市町村担当者と交流をする機会がない。	○	交流する場を作り、サービスの向上に取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	主に携わっているのが管理者であり、他職員は関わっておらず、理解していない職員も多い。	○	施設内でも研修を開き、理解を深めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時などに虐待について話し合い、防止に努めている。		介護するにあたり、不安などがあれば、管理者・主任・副主任に相談して、アドバイスを受けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は不安がない様、事前訪問を行い、利用者や家族と面接し、連絡を密にしている。		契約時には十分に説明を行い、納得した上で契約を行っている。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動を観察し、いつもと違う場合には声を掛け、話しやすい場を作り、話し合いを行っている。		意見、不満、苦情があった際には管理者を含め、職員間で話し合い、改善を図っている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	新聞や写真を作り、来訪者に見てもらっている。金銭管理は出納伝票に記入し、家族の確認後、サインをもらっている。		月に1回、管理者より、状態報告の手紙を送っている。また、健康状態に異常があった時にはその都度電話にて報告している。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、対応している。また、面会時や家族会などで意見を聞いている。		1年に1回家族会を開き、意見や苦情等を伝えてもらっている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議で意見交換を行っている。		決定事項は議事録や申し送りにて行い、全職員が周知するようにしている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	受診や買い物を行うときには調整を行い、どうしても職員が少なくなる時には、両棟一緒に合同レクリエーションを行い、対応している。		受診、買い物はなるべく職員数が多い午前中に行う。月・水・金には3人体制がとれるよう、調整をしている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各棟の職員を固定化し、対応しているが、やむを得ない場合には引継ぎや連絡を密にしている。		新しい職員や、引継ぎを行う職員には、早く馴染んでもらうよう、利用者との関わりを多く持てるようにしている。
18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	マニュアルを作成し、該当箇所に掲示し、いつでも見られるようにしている。また、全部をファイリングしたものを事務室にて掲示している。		必要時にはマニュアルの見直しを全職員で行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が交代で研修や講習を受けている。		研修後には復命書を作成し、職員間で回覧し、理解を深めている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と食事会に参加し、情報交換を行っている。		食事会にて得た情報を、申し送り等にて全職員に伝えている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	研修等に参加し、他施設職員と交流、親睦の場を作るようにしている。		職員同士の間人間関係を把握し、職員が一丸となるよう、努めている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、頻回に現場に来ており、利用者だけでなく、職員一人一人に話をする場を設けている。		職員が向上心を持って働けるよう、賞与や待遇を考慮している。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問を行い、本人の状態をよく把握するようにしている。		本人に面会し、話をよく聴き、本人を受け止めることを大切にしている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問時、家族にも立ち会ってもらい、家族の立場に立って話をしっかりと聴き、家族の思いを受け止めている。		本人と家族の思いの違いや家族同士での思いの違いも理解しながら受け止める努力をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談時、本人・家族の思い・状況を確認し、改善に向けた支援の提案や必要なサービスにつなげるようにしている。		早急な対応の必要な相談者には、可能な限り、柔軟な対応ができるように努めている。
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	職員が自宅に出向いたり、本人が関わってきた関係者に来てもらうなどして、安心感を持ってもらうようにしている。		本人が納得がいかないまま、心理的不安を抱えたままで利用する事のないように心掛けている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	本人の日常生活にて得意としている事に積極的に参加を促し、お互い様という気持ちや、感謝するという関係を築いている。		関わりの中で一方的な関係にならないよう一緒に過ごし、学び・支えあう関係を築いている。
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝え、本人を支えていくための協力関係を築いている。		家族の思いに寄り添いながら、日々の出来事や、気づきの情報の共有に努め、本人を共に支えあう関係を築いている。
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	家族会、誕生会などの行事に参加していただき、日々の暮らしや、介護にも家族が関われる場面や機会を作っている。		家族や本人の思いを見極めながら、外出や外泊で家族と過ごす機会を作っている。
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないよう心がけている。		馴染みの人や友人等に訪問してもらうなど、支えてきた人との関係が途切れないように努力をする。
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	日中の体操やレクリエーションへの参加を促し、共に楽しめる場を提供している。 役割を通して、共に助け合い、支えあっている事の理解に努めている。		利用者同士が共に楽しみを共有できる場や機会を増やす。 利用者同士の関係が円滑になるよう心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移られた方にも家族や本人の希望があれば相談やフォローを行っている。		培われた関係を大切にし、その後も相談や面会を行っている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話に傾聴し、本人が伝えたい事を受け止めるようにする。		本人や家族との会話の中から思っていること、今したいことなどを知り、その希望に沿って援助を行っている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中で昔の話や昔の生活、好きなことなどを聞かせてもらい、本人の状態把握に努めている。		入居時に家族から生活歴を聞いたり、利用者本人より話を聴いている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人ができる事を役割として行ってもらおう。		利用者の方が無理をしないで行える事を見つけ、実行している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成時に家族、本人の意見を取り入れ、職員間で話し合い、作成している。		計画書の作成時だけでなく、面会時などに利用者の日常生活を伝えながら作成している。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了していなくても、ADLの変化が極端に見られた場合など、必要に応じて管理者・職員間で話し合い、ケアプランの変更を行っている。		変化のあった時には、家族にも連絡を行い、介護計画の変更確認をしてもらう。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録記入時、利用者の言動や行動、ケアプランの実践記録などを記入して、申し送り時に伝えている。		利用者の言動を時間ごとに記入しており、それによって一日の生活の様子が分かるようにしている。 状態が極端に変化した場合、家族の理解を取り、ケアプランを変更していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、外出支援や通院の支援・介助を行っている。		地域医療と連携しながらターミナルケアを行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の防災訓練等を行ったり、地域の区長さんと連絡を取り合っている。	○	ボランティアを募集して、利用者との会話やお世話などをお願いするようにしたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	提携しているケアマネジャーやサービス事業者と連絡を取り、利用者への支援を行っている。		ケアマネジャー・サービス事業者との連絡を密にし、情報交換を行っている。 また、月に1回床屋さんに来てもらい、希望者には利用してもらっている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、参加してもらっている。	○	情報交換、協力関係を密にしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医に月に1回往診(定期診察)に来てもらったり、必要時には受診介助を行っている。		定期的な往診の他に急変の時には時間に関わらず、往診してもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医は内科であるが、認知症の相談にも乗ってもらっている。		提携医より指示があった場合や、管理者が判断した時には専門医の受診を行っている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	急変時には併設のデイサービスの看護師に連絡し、対応している。		夜間は不在のため、電話にて連絡をしている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には病院への面会や連絡を密にし、対応している。退院可能時には、受け入れ態勢を整えている。		入院時には病院へ情報提供を行い、職員は頻回に面会し、家族とも情報交換を行っている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と話し合い、今後の対応について検討を行う。当施設においてターミナルケアを希望する場合、提携医や職員で対応を行う。		ターミナルケアに対する同意書を作成し、ケアについての説明を行っている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員間や提携医と話し合い、ターミナルケアについての支援を行い、職員間でも情報を共有している。		急変した場合にはすぐに対応できるよう、提携医とも連絡を密にしている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族が移行先で継続的な支援を受けられるよう退所時情報提供書を活用して情報交換している。		退所時情報提供書でグループホームでの様子などを移行先に送付して、本人・家族が継続的に支援を受けられるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	ミーティング時、職員の意識向上を図ると共に、利用者のプライバシーを損ねない対応を徹底している。	個人情報の漏洩防止・秘密保持を徹底している。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	買い物でのおやつ選びや外食時には自分の好きなものを選ぶようにしている。	買い物時に食べたいものなど選んでもらっている。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	自分のペースで生活できるように支援をしている。	他者と少々リズムがずれてもその人のペースを重視している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	個人の持ち物の中から着替えを手伝ったり、月に1回理容師さんが来て本人の希望の髪形にしている。	出かける時には化粧をしたり、髪型が変わった時にはほめたりして、身だしなみやおしゃれに関心を持ってもらう。
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	職員と利用者がテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう、声掛けや雰囲気作りを行っている。	日常の会話の中から好きな食べ物などを聞き出し、それを献立の中に取り入れる様にしている。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	ビールが好きな人もおり、食後や入浴後に飲んでもらっている。	体調管理のため、飲む量を決めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の時間や習慣を把握し、トイレ誘導を行っている。		日中にはトイレ誘導を行い、必要な方には夜間のみオムツ対応・オムツ交換をしている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後より入浴を行い、入りたくない利用者には時間や声掛けの方法を変えて対応している。それでも拒否がある場合には無理強いをしない。		自分のペースでゆっくり入ってもらいが、長湯の時には声掛けを行う。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、寝付けない方にはお茶飲みや会話するなど、対応している。		レクリエーションや体操・入浴で体を動かす事によって、夜間安眠できるようにする。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人にあった仕事や作業をしてもらい、終了後には感謝の言葉を伝えている。		日常生活の中で、自分の役割として思ってもらい、頑張ってもらよう支援する。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの人が自己管理ができないため、グループホームで預かり、対応している。		個人別の金銭管理出納帳を作成して管理している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩や買い物を行っている。		冬期間や雨天時にはショッピングモールなどで外食を行っている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回、外出支援や小旅行・ドライブなどを計画し、実行している。		1ヶ月以上前より計画を立てて、職員の勤務調整を行い、当日はなるべく多くの職員が介助に当たれるように調整している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時に電話をかけてもらっている。		家族の気持ちに配慮しながら、なるべく本人の希望に添えるようにしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が訪問した時には、好きなところで過ごし、会話を楽しんでもらう。		リビングで過ごされる家族が多く、その時にはさりげなく利用者の体調や日常の様子などを伝えている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体を拘束することなく、利用者の自由な行動を尊重し、利用者側に添ったケアを行っている。		ミーティング時には、職員間で話し合い、どのような介護を提供できるか話し合っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は利用者各自が希望し、施錠する以外は、日中の施錠は全くない。 玄関においても常に自由に出入り可能で、利用者にも束縛感はない。		玄関より出られる利用者には、職員が付き添い、共に外出する。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者一人一人の行動パターンを知り、その行動が安全を損なわぬか、早い段階で見極める。 常に利用者の人数確認を行う。		昼夜ともに利用者が見渡せる場所にて、作業や休憩を行っている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品数の確認を行い、危険物は利用者の手の届かぬ場所にて保管をする。		利用者が使用する際は必ず職員が見守り、安全確保する。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっとや事故報告書を作成し、今後の対応策や、一人一人の状態での起こりやすい事故を想定し、防止策を職員間で話し合う。		内服の管理・時間ごとの利用者確認・火災原因につながるとされる物品の保管場所を決め、使用するときには見守りを行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が年に1回、消防署の救急法や蘇生法の研修を受けている。	○	施設内独自での定期的訓練を行っていききたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、職員・利用者全員による避難訓練を行っている。	○	集落全体として協力をお願いしているが、夜間等も考慮し、ご近所の方ともしっかりとつながりを持ち、協力を得られるようにしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居の際には家族等とリスク対応の話し合いは必ず行っている。 また、日々の生活の中で生じた思わぬリスクに対しても、その都度連絡し、必要に応じて話し合いの場を持ち、利用者の生活の質の向上を図る。		家族からの意向をより多く受け入れ、対応している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員は異変の発見に努め、発見時にはただちに管理者に報告・指示を受け、書面及び口頭にて全職員に情報を共有し、対応している。		入浴時、身体を観察で異変の発見に努めている。 バイタルの異常時は、時間をおいて再検を行い、変化がなければ管理者に報告し、提携医に連絡している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は全職員が理解するまで目の届く所に添付している。		内服薬は本人に手渡し、飲み込んだことを確認する。 内服変更時は特に変化の有無に注意を払っている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い食物を摂取できる献立作りを心がけ、毎日の体操や、水分摂取に努め、自然排便を促している。		排便チェックを行い、便秘が続いた時には、医師の指示を受ける。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に必ず歯ブラシを手渡し、口腔ケアを促している。 自力でできない利用者には介助を行っている。		義歯使用者には、夜間義歯を預かり、洗浄を行い、翌朝渡す。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事を生活記録に記入し、摂取量を把握している。 10時・15時におやつ時間を設け、水分補給を行っている。		状況に応じて食事内容が偏らないように献立を工夫している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルがあり、全職員に配布し、予防・対策に努めている。 職員・利用者が全員、インフルエンザの予防接種を行っている。		食事前の手洗い・消毒の励行。 外部から入室する際、うがい・手洗い・消毒を行っている。 玄関に消毒を設置し、面会者にも呼び掛けている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	業務の中に、冷蔵庫掃除や食材のチェックが組み込まれており、衛生管理に努めている。		食中毒の恐れのある物は発注の際に、その日に使用する分だけを発注し、早く使用するようにしている。 布巾・まな板等の調理用具の消毒は毎日行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	植木や季節に応じた花を配置し、工夫している。 玄関の掃除を毎日行い、出入りする人に不快感を与えないようにしている。		玄関付近の掲示板に旅行やイベントを行った際の写真等を貼り、親しみやすい雰囲気作りの工夫をしている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯や利用者の申し出により、カーテンや電気の調節を行い、明暗に配慮している。 季節により壁面装飾や掲示物を変えている。		利用者が制作したカレンダーや絵を掲示し、生活感を取り入れている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ・テレビ・テーブルがあり、利用者同士で思い思いに過ごせるよう、空間作りをしている。		リビング以外にも廊下や玄関に長椅子を設置しており、自由に過ごせるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族との写真や手作りのカレンダーなどを貼り、雰囲気作りをしている。	○	家族や職員が選んで買ってくるものが多い。なるべく本人の希望するものを揃えたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節や天候に応じて、温度調節をしたり、換気を行っている。		温度・湿度計をチェックし、温度調節をしたり、冬期間は加湿器を使用し、乾燥しすぎないように努めている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かし、安全で自立した生活が送れるよう、建物内はバリアフリーにしている。	○	バリアフリーだが、棟内が広く、移動面での困難や死角があり、転倒の恐れがある。手すりの設置を増やしたり、家具の配置を変えて危険を減らしたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の状態を把握し、自己にてできる作業や行動を支援している。 作業がしやすいよう、環境作りや準備、声掛け等を行っている。		浴室・トイレ・居室等に表札・名前を貼り、分かりやすいよう、工夫している。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭では畑作業ができるスペースを設けて、野菜の収穫や草取りを楽しんでいる。 季節によってプランターや球根などの園芸用具を揃えて楽しめるようにしている。		天気の良い日には中庭で食事をしたり、レクリエーションを行い、気分転換を図っている。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	0	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	0	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	0	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	0	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	0	大に増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	0	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・「その人がその人らしい生活を毎日笑顔で送る」を重点として、より楽しく、笑顔が多く見られる行事を多く取り入れている。
- ・季節を感じる小旅行、外食、忘・新年会など、盛り沢山に行っている。
- ・毎日の入浴で清潔の保持と質の向上を図る。
- ・趣味や特技を引き出し、少しでも行えるようにする。
- ・会話を大切に、会話を多く、楽しい会話で笑顔をたくさん見せていただいる。